

平29年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（西院幼稚園）

1 幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する	保育の改善・充実		
<p>・教師との信頼関係を基に、集団の中で、自己を発揮し、自分で行動する充実感を味わうようする。(保育計画の反省・評価を次の保育に活かすように意識する。主体的に遊ぶ保育環境の構成に努める。)</p> <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の記録、週案の反省評価、事例検討 ・アンケート「自分から遊びを見つけ楽しんで遊んでいる」 「子どもが楽しんで遊べる環境構成づくりに努力している」 			
<p>各種指標結果（1回目）</p> <p>・保護者アンケートでは「自分から遊びを見つけ楽しんで遊んでいる」は97.5%があてはまる。「子どもが楽しんで遊べる環境構成づくりに努力している」97.5%があてはまる。</p> <p>・事例の中では、自ら進んで遊び、自己を発揮し、自分で行動する充実感を味わう姿はあるが、今後は、人との関係の中でとらえることが重要であることが見えた。</p>			
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人とかかわりたくなる環境、主体的に遊ぶ環境については意識して取り組んだ。事例を検討する中で、人とかかわってより楽しさを味わう、主体的に遊ぶためには、コミュニケーションが重要であることが見えてきた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人とかかわりたくなる環境、主体的に遊ぶ環境・保育を今後も検討すると共に、人とのかかわりの中で自分の思いを伝え、自分で行動する充実感を味わうための言葉やコミュニケーションにも注目する。 		
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方の質は高い。一人一人の子どもの課題をよくとらえている。 ・多忙に見える。事務の軽減などができるべきだと思う。 ・幼小接続の研究は、一幼稚園一小学校一中学校の西院地区には、有用な研究であり、子どもの姿を互いに理解しつつ、主体的な子どもたちを育ててほしい。 		
	<table border="1"> <tr> <td>評価日 10月18日</td> <td>評価者 学校運営協議会</td> </tr> </table>	評価日 10月18日	評価者 学校運営協議会
評価日 10月18日	評価者 学校運営協議会		
<p>各種指標結果（2回目）</p>			
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p>		
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>		

学校 関係者 評価	学校関係者による意見・支援策	
	評価日	評価者

自己 評価	2 小学校への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む 幼小接続の視点	
	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな学びリーディングスクールの研究により、小学校の教員との連携をより密にし、接続期のカリキュラム作成を目指す。 ・公開保育への参加を他の就学前施設に積極的に呼びかけ、幼児期に育てたいことの共通理解を図る。（公開保育を見て、協議に参加してもらう、アンケート等で保育についての意見をもらう） 	
(取組結果を検証する) 各種指標		
<ul style="list-style-type: none"> ・交流の事前・事後検討会の開催 ・公開保育への他の就学前施設や小学校の参加状況 ・言葉による伝え合いの事例検討 ・アンケート「幼稚園・小学校の連携ができている」 		
各種指標結果（1回目）		
<ul style="list-style-type: none"> ・交流の事前・事後検討会の開催については、未実施。 ・公開保育の他の就学前施設や小学校の参加状況は良好。 ・言葉による伝え合いの事例検討は積極的に行えている。 ・保護者アンケート「幼稚園・小学校の連携ができている」は、87.5%があてはまる。 		
自己 評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・教員レベルでの幼小の交流を望む。まずは教員同士が顔見知りになる努力が必要。 ・年度初めに、教頭と教員が小学校を訪ね話し合いをしたことで、教員の意識も高まった。 	
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の先生との交流ができるよう、教員も積極的に小学校へ出向いていく。 ・小学校の教員に幼稚園の教育を理解してもらいやすい公開保育の観点や事例の書き方を今後も検討していく。 ・2学期以降に子ども同士の交流があるので、事前・事後の検討会を必ず幼小で行う。 	
学校 関係者 評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・教員同士の連携は公立ならではのこと、大変良い取組である。特に西院地域は公立幼稚園・小学校・中学校と幼小中の一貫教育ができる。西院校園連盟を通して、小・中学校への働きかけを学校運営協議会からもしていく。 	
	評価日　10月18日	評価者　学校運営協議会
各種指標結果（2回目）		
自己	分析（成果と課題）	

評価	分析を踏まえた取組の改善	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	評価日	評価者

<p>3 自ら体を動かす意欲を育て、 基本的な生活習慣を形成し、 自信と自立心を育む</p> <p style="text-align: right;">心と体・生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてをもち、 リズム遊びや集団で体を動かす遊びをする。 ・隣接する公園・小学校の校庭を活用し、 広い場所で子どもの運動欲求を満たす保育の展開 ・保護者に寄り添いながらも、 子どもの自立を促す工夫（排泄の自立、 食事の自立、 規則正しい生活リズムの確立等） <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案の反省評価、 子どもの記録 ・小学校や公園に遊びに行った回数 ・健康カードの記述、 ・アンケート「望ましい生活習慣が身に付いている」「体を動かして遊ぶことが好きである」 <p>各種指標結果（1回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案の反省評価、 子どもの記録からは、 子どもは体を動かすことが好きで、 自らめあてをもって取り組んでいる。（竹馬、 一本歯下駄など） ・小学校にも昼休みを利用して昨年より多く遊びに行っている。 ・健康カードの記述は教員と保健職員で共通理解し、 保護者啓発に活用している。 ・アンケート「望ましい生活習慣が身に付いている」は 67.5 %があてはまる。 「体を動かして遊ぶことが好きである」は 92.5 %があてはまる。 		
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす遊びへの意識をもって保育している。 ・健康カードから、 気になることにチェックをし、 保護者と共有し、 改善を図ろうと努力している。 ・生活習慣についての母親の意識は高くなっています、 正直に記入している。C・D評価は昨年とほぼ変わらない数値であるが、 D評価はわずかながら増えている。「寝る時間が極端に遅い子どもがいる」ことが課題。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす遊びについてはさらに、 充実していく。 ・母親の正直さはそのまま認めつつ、 子どもの成長にとってという観点で啓発をしていく。 ・公園の活用等は安全管理の体制に努力する。 	

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・健康カードなどからは、早寝早起きについては、保護者の努力もあり実現できていると思うが、保護者の評価や厳しめではないか。 ・公立幼稚園の良さとして、親も子も育つことがある。ぜひ、家庭の教育力も上げる取組をしてほしい。 	
	評価日　10月18日	評価者　学校運営協議会

各種指標結果（2回目）

自己 評 価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> 分析を踏まえた取組の改善 	
	学校関係者による意見・支援策	
学校 関 係 者 評 価	評価日	評価者

4 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する

信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え

- ・仲間意識や自己有用感が持てる保育を展開
- ・互いの思いを伝え合い、認め合う人間関係の構築

（取組結果を検証する）各種指標

- ・子どもの記録、週案の反省評価、事例検討
- ・アンケート「気の合う友達がいる」「先生や友達の話をよく聞いている」「自分の気持ちを言葉で伝えている」

各種指標結果（1回目）

- ・子どもの記録、事例では、相手の話に対して受け応えることが少ない。
- ・アンケート「気の合う友達がいる」85%
- 「先生や友達の話をよく聞いている」60%
- 「自分の気持ちを言葉で伝えている」50%

自己 評 価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿、事例からは相手の話に対しての受け応えが少ないと見えた。コミュニケーション力の弱さなのか、相手を認める思いが薄いのか今後の保育の中で見ていく。 ・アンケート結果から話す聞くとに課題がある。また、思いを伝え合うことができにくくい子どもいる。人間関係を見直していく。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・他の子に関心をもち、互いに認め合う保育を心がけ続けていく。 ・教師が子ども自身に自分の良さが分かる返し方をしていく。 ・語彙が増える保育（言葉遊びを取り入れる。絵本の読み聞かせをより意識して取り組む）

	<p>を心掛ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを具体的に聞き、伝えるための語彙を知らせていく。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感は周りの人との人間関係も大きい。マイナス面を見がちだが、子どもたちも先生もよいところを見ていくことが大事である。 ・幼稚園の先生は、子ども一人一人に声をかけ、話を丁寧に聞いている。家庭でも親子での話し合う時間を大事にする取組をすることを園から何らかの形で提案していくことが必要である。 ・幼稚園では人間関係を豊かにしていくことが親子ともに大事である。
各種指標結果（2回目）	
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>
	評価日 評価者

<p>園独自の項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAや関係機関と連携した子育て支援の充実 <ul style="list-style-type: none"> PTAによる未就園児へのほっこり子育てひろばの開催 民生委員や学校運営協議会と連携した子育てひろばの開催 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAによる未就園児へのほっこり子育てひろばの開催回数と参加人数 ・未就園児クラスへの登録者数 ・未就園児保護者へのアンケート <p>各種指標結果（1回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAによる未就園児へのほっこり子育てひろば（ぴよびよカフェ）は2回開催。民生委員と連携した子育て支援は2回開催。 ・未就園児クラスへの登録者数は、42名。 ・未就園児の保護者アンケートでは、子育てを楽しむ事よりは、情報収集したい思いが強い。
--

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> PTAは子育て支援に熱心に取り組んでいる。また、幼稚園は、児童館、つどいの広場などとの連携を積極的にしながら、子育て支援に取り組んでいる。 ぴよぴよカフェの開催を積極的に行っていている。未就園児の保護者に在園児の保護者同士が仲良くつながりを持って活動していることが伝わるとよい。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ぴよぴよカフェの開催は無理なく、在園の保護者と未就園の保護者が交流できるように午前中を開催できるように形を替えていくことも必要と思う。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> 子育て支援を通して、公立幼稚園の方針などを丁寧に伝えていくことが大事ではないか。 保護者がPTA活動を熱心にしていることは、子どもたちの育ちの中にも良い影響を与えており、学校運営協議会も少しでもPTAの手助けをしていきたい。 子育て支援事業の未就園児クラスや、預かり保育などで今後も学校運営協議会が保育補助をしたり、イベントをしたりして協力していく。
	評価日　10月18日　　評価者　学校運営協議会

各種指標結果（2回目）

自己評価	分析（成果と課題）
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	評価日　評価者